

スボレキサント投与症例における状況調査

アーク調剤薬局 葦崎店

平賀 一貴

【目的】

スボレキサント（ベルソムラ®）は従来の睡眠剤とは異なる作用機序を有し、覚醒を司るオレキシン受容体を阻害することで、睡眠効果を発揮し、また依存性がなく、筋弛緩作用がないと言われている。しかし、BMIが高い場合効果が強くなり、またCYP3Aを阻害する薬との併用の場合も強くなるので慎重投与又は併用禁忌となっている。現在、多数の疾患を持ち、複数の薬を服用している患者は多く存在する。そこで、スボレキサントを処方された患者の効果や併用薬の状況などを調査したので報告をする。

【方法】

一般内科を受診しスボレキサントを処方された57症例のうち、データが揃っている40症例（男性9例：女性31例）について後向き解析を行った。平均年齢69.2±14.3歳、平均BMI22.4±2.98kg/m²、スボレキサント服用量7.5mg：15mg：20mg=2例：25例：13例、他の睡眠剤からの切り替えは17例、またCYP3Aを阻害する薬を併用しているのは17例であった。身長、体重、効果、併用薬の確認は、患者本人の聞き取り調査で行った。

【結果】

40例中有効は25例（62.5%）、無効は10例（25%）であった。副作用は5例（12.5%）に現れ、傾眠と頭痛であった。1例は減量となり、他の4例は中止となった。有効例と無効例の比較（副作用の5例を除く35例中）：①BMI25以上は5例存在し有効例は4例、無効は1例。②他の睡眠剤からの切り替えにおいて、毎日服用していたのは9例あり、有効は5例で無効は4例であった。また頓服で服用していたのは8例で、有効は6例で無効は2例であった。新規で処方されたのは18例で有効は14例、無効は4例であった。③CYP3Aを阻害する薬を併用しているのは17例で有効は13例、無効は4例であった。併用していない症例は18例で有効が12例、無効が6例であった。

【考察】

今回の調査で、スボレキサントを新規に処方された症例、睡眠剤を頓服で服用している症例は効果がある傾向にあったが、睡眠剤は毎日服用している症例から切り替えた場合に、あまり差がなかったことが示唆された。今後、スボレキサントに切り替えていく場合には、服用していた睡眠剤の種類や飲み方などを確認し、切り替え方の患者教育が必要となると考えられる。